

資料2 地方版総合戦略について

※平成27年12月8日第2回夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定委員会資料より抜粋

1. 第1回策定委員会の主な意見

視点1 夕張の資源を活用した雇用を創出するためには？

第1回策定委員会での意見

◆雇用のミスマッチ

・求人と求職のミスマッチが起きている。介護施設の働き手が少ない。

◆若者が住み、働く環境の不足

・市内に若者が住む場所がないのが一番の課題。民間賃貸住宅は少しずつ建設されてきているが、他市町村の方が、家賃が安い場合があるため、そちらの方に行く。

◆高齢者の雇用の場の不足

・定年を迎えた高齢者が再雇用を求めている。高齢者の力を活用していけると良い。

◆メロン農家の人手不足

・メロン農家は夏場に人手が足りず、市外から人を集めている。

◆起業者へ紹介できる物件の不足

・夕張では会社の設立や不動産の取引が少ない。起業したい人に対しては、紹介できる資源(物件)が不足している。

◆夕張での可能性を発信

・何かチャレンジする場所として夕張は良いと思う。夕張での可能性を打ち出していないと若い人は来ない。

・市外から夕張に通勤している人は、そもそも夕張に興味がない。そういう人に対して夕張に親しみが持てるような取組や機会が大切ではないか。

◆森林資源の活用

・森林資源を活用した取組の実施。(メイプルシロップ、トレイルランニングの場所など)

・小さいことでも良いので、夕張でまず何かを始める人が増えたら良い。ローカルベンチャーの取組み、小さな雇用の創出。

視点2 新たな人のながれ・交流人口を生むためには？

第1回策定委員会での意見

◆夕張が持つ魅力や可能性について、市民の意識を共有する

- ・まずは夕張の人が夕張の魅力を語れるようになるべき。
- ・登山やカヌーなど、夕張の自然の魅力や良さを市内の人に分かってもらいたい。

◆知名度を活かし、夕張の魅力を広く発信する

- ・知名度の面で夕張は得をしている。もっとPRすべき。
- ・観光客が夕張に訪れるための明確な目的が必要。
- ・紙ベースに限らず、外から来た人がアクセスしやすい情報発信が必要。

◆スポーツ施設の活用について、道外・海外に目を向ける

- ・スキー場のあり方は課題。(ナイター時間、地元選手が不足)
- ・今後のスキー業界は外国人が対象となる。外国人を受け入れることができる環境や、スタッフの育成などに対応していくことが必要。
- ・冬はスキー合宿が多く好評だが、道外や海外に対して積極的にアピールすると、もっと伸びる可能性がある。世界的にみても北海道のスキー場は可能性がある。
- ・夏に関しても、夕張のグラウンドは宝物であり、夏も冬も合宿やスポーツ選手の受け入れを行えば、まだまだ活気が生まれる。

◆民間の活力を生かした事業推進

- ・自然資源や歴史資源を活かすためには民間の活力が必要。夕張が魅力あるまちにならなければ、民間企業による投資は集まってこない。

視点3 若者の定住を促進するためには？

第1回策定委員会での意見

◆住む場所の確保

- ・出て行く人を抑えるために、ニーズに合った住まいの提供(空き家や中古住宅の活用、土地提供など)が必要。
- ・市営住宅を活用した二地域居住なども考えられるのではないか。

◆雇用の確保

- ・定住促進を考える上でも、安定した所得を見込める雇用の確保がやはり必要。
- ・農家の後継者確保のため、婚活を推進している。ただ女性に来てもらうというだけでなく、夏は農家、冬はリゾートといった就業連携が必要。

◆子育て支援の情報提供

- ・子育て支援に関するわかりやすい情報提供が必要。
- ・周りの人とつながりができると、子どもを可愛がってくれたり、助けてくれたり、最高の環境。

◆子育てするための医療機関が必要

- ・市内に産科・小児科が必要。市外の病院へ行くのは、特に冬場は辛い。

◆生徒数の減少

- ・一部の部活動では、夕張の生徒だけでは成り立たなくなり、近隣市町村と合同で実施。

視点4 まちのコンパクト化、拠点形成のためには？

第1回策定委員会での意見

◆小中学校・高校生のバス乗り場

・南清水沢のバス停で下校時の中学生を見かけたが、待つ場所すら無いのが実情。

◆子供たちの放課後の居場所が不足

- ・ごみが散乱していたり、遊具が劣化しているなど、使える公園が少ない。
- ・学生が部活帰りに行ける場所が無いのが問題。現状ではコンビニしかない。

◆拠点に加え、各地区にたまり場・集まれる場が必要

- ・安全・安心を考えると、各地区に児童館のように集まることができる場所が必要。
- ・拠点施設の近隣だけでなく、地区ごとに集まることができる場所が必要。

2. アンケート調査結果

アンケート調査結果 まとめ

■ 転入促進・転出抑制のために

① 10代→40代になるほど、夕張での居住意向は高い

➡ 特に30、40代の子育て世帯にとって、より住みよい環境づくりが必要。
10、20代に対しては、住む動機づけとなる就業の場の確保等も必要。

② 市外で居住した経験のある方ほど、転居する可能性が高い

➡ ネットとなっている「医療・福祉サービス」「買い物や娯楽」の不便さの解消と、「企業誘致・就業場所の確保」に取り組むことが必要。

③ 市外からの通勤者にとって、「あまり住みたいと思わない・住みたくない」割合が多いが、若年層ほど「居住条件がそろえば、夕張に住んでもよい」割合が高い。

➡ 居住条件として割合の高い「身近な買い物」「住宅の確保」「除雪」「医療・福祉の支援」の充実が必要。

④ 夕張に住む場合、希望する住宅は、「民間の賃貸マンション・アパート」が約48%と半数近い。

➡ 若年層が手ごろな家賃で居住できる民間賃貸住宅の建設・整備が必要。

アンケート調査結果 まとめ

■ 転入促進・転出抑制のために

⑤ 中高生にとって、就業後は「市外に住んで働きたい」が最も高い。

➡ 中高生ともに「通勤利便性」「買い物・娯楽の充実」を求めている。

⑥ 就業後は「夕張市に住んでいたい」または「夕張市に住んでいたい、希望する職業では難しい」が、高校生が38%、中学生が45%と約4割。

➡ 中高生ともに「市外に住んで働きたい」の割合が高いが、“夕張に住みたい”と希望する中高生が、居住地として選択できる環境を整えることが重要。

■ 希望する結婚・出産・子育ての実現のために

① 理想とする子ども人数は平均2.59人、現在いる子ども人数は平均1.58人と、約1.01人の差がある。

➡ 現在の子ども人数が理想の子ども人数より少ないネックとして、「産科小児科の医療環境の不便さ」「子育て・教育費の負担」「仕事との両立」に取り組むことが必要。

② 市の子育て支援策のうち「子どもの各種予防接種無料」「乳幼児医療費無料」「乳幼児各種健康診査費用無料」の利用率・満足度が高い。

➡ これまでの施策とともに、産婦人科・小児科をはじめとする「医療環境の充実」に取り組むことが必要。

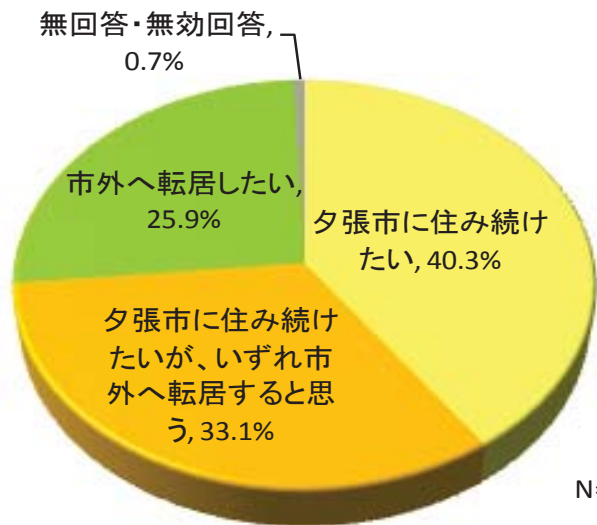
(参考) 調査概要

	①市民 アンケート	②通勤者 アンケート	③高校性 アンケート		④中学生 アンケート
対象	夕張市内に居住する18～49歳の市民	市内の事業所に市外から通勤して勤務している就業者	<ul style="list-style-type: none"> ・夕張高校に通学する生徒109名 ・夕張高等養護学校に通学する生13名 	<ul style="list-style-type: none"> ・夕張中学校を卒業後、市外の高校に通学している生徒24名 ・市内に在住し、市外の高等養護学校に通学する生徒2名 	夕張中学校生徒119人(3学年)
配布・回収方法	郵送配布 郵送回収	各事業所を通じて配布・回収	高校を通して配布・回収	郵送配布 郵送回収	中学校を通して配布・回収
回答期間	平成27年7月30日～8月7日、9月9日～9月18日	平成27年7月下旬～8月7日	平成27年7月8日～7月24日	平成27年8月17日～8月28日	平成27年7月21日～7月30日
配布数	1,000人	228人	夕張高校:109票 高等養護学校:13票	市外高校:24票 市外高等養護学校:2票	119票
回収数	305人	158人	夕張高校:102票 高等養護学校:10票	市外高校:7票 市外高等養護学校:1票	111票
回収率	30.5%	69.3%	夕張高校:93.6% 高等養護学校:76.9%	夕張高校:29.1% 高等養護学校:50.0%	93.3%

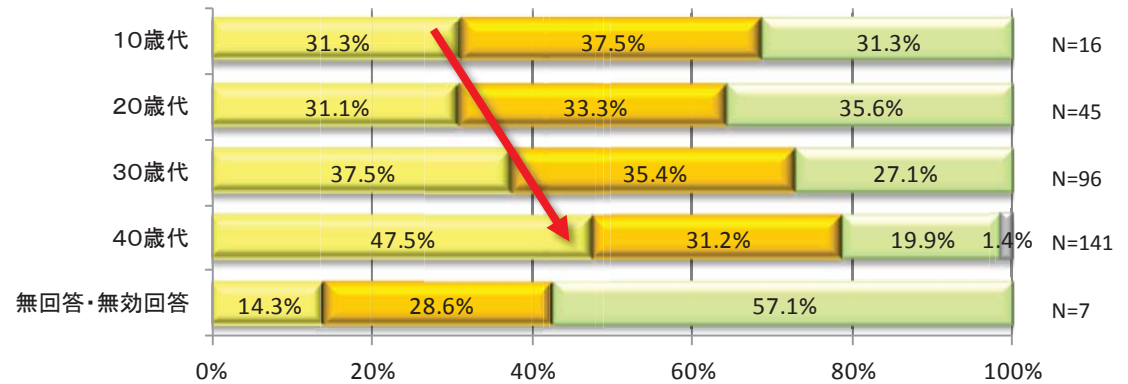
(参考①) 市民アンケート調査結果

■今後の（就業後の）居住意向

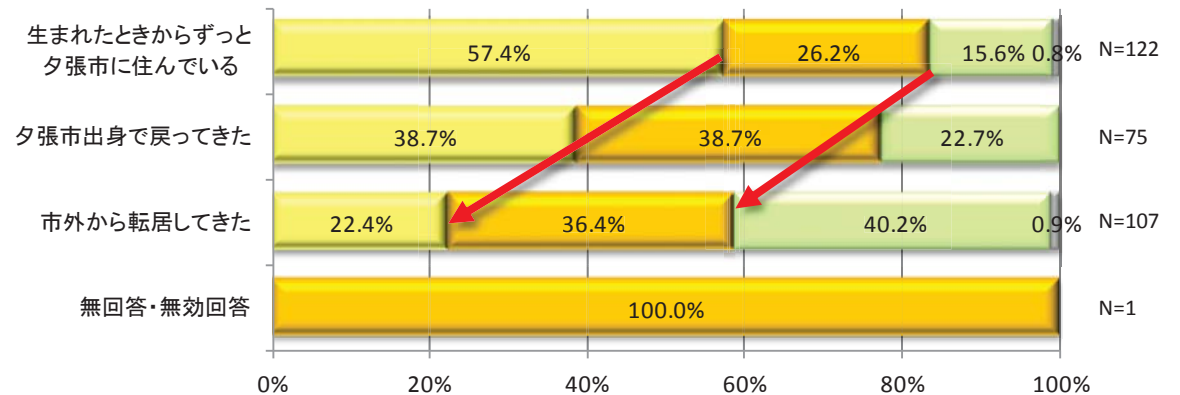
- ・「夕張市に住み続けたい」もしくは「夕張市に住み続けたいが、いずれ市外へ転居すると思う」が7割以上を占める。
- ・10代から40代になるにつれ、「夕張市に住み続けたい」割合が高くなる。
- ・生まれたときから夕張市に住んでいる方は、夕張市への居住意向は強いが、市外で居住経験のある方が「市外へ転居したい」割合が高い。



【年代別集計】



【居住歴別集計】



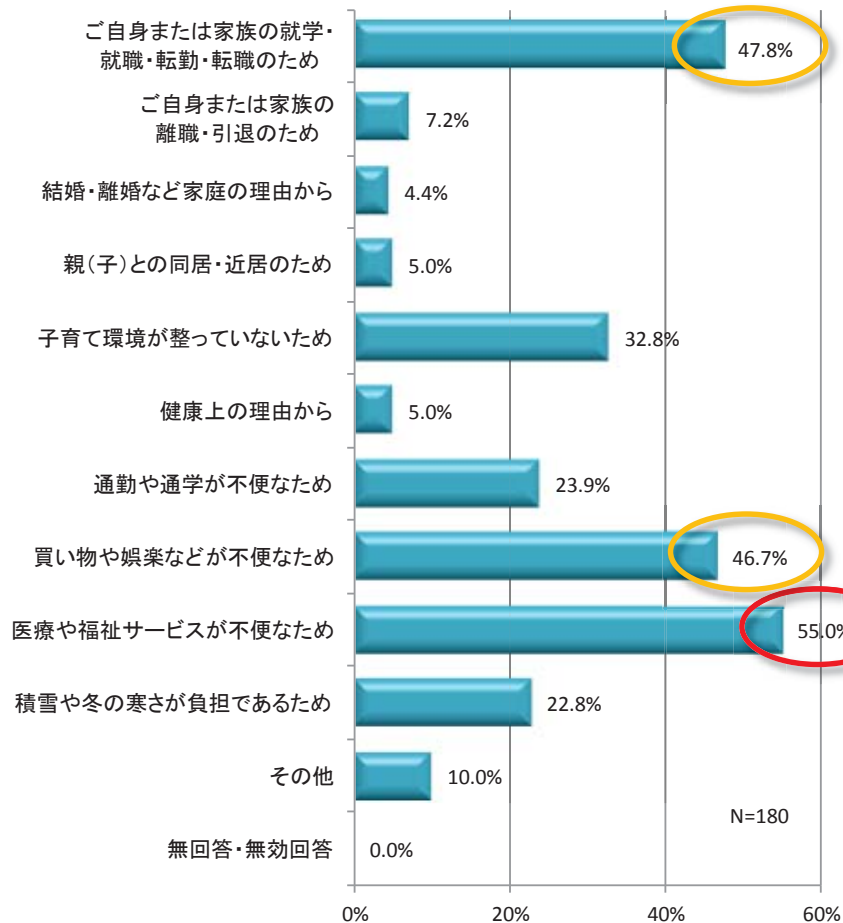
- 夕張市に住み続けたい
- 夕張市に住み続けたいが、いずれ市外へ転居すると思う
- 市外へ転居したい
- 無回答・無効回答

(参考①) 市民アンケート調査結果

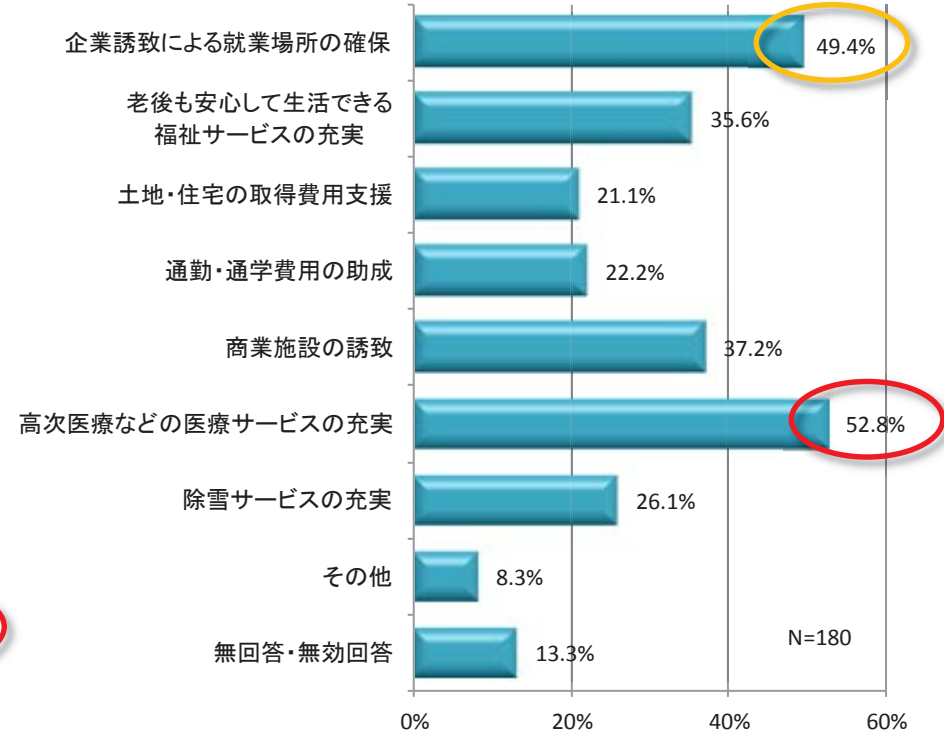
■ 市外へ転居するまたは転居したい理由

- ・「医療や福祉サービスが不便なため」が過半数を超えて最も多く、次に「ご自身または家族の就学・就職・転勤・転職のため」「買い物や娯楽などが不便なため」が5割近く、3項目が突出している。
- ・解決に向けては、「高次医療などの医療サービスの充実」が過半数を超えて最も多く、「企業誘致による就業場所の確保」が次に約5割となっており、これら2項目が突出している。

【市外へ転居するまたは転居したい理由】



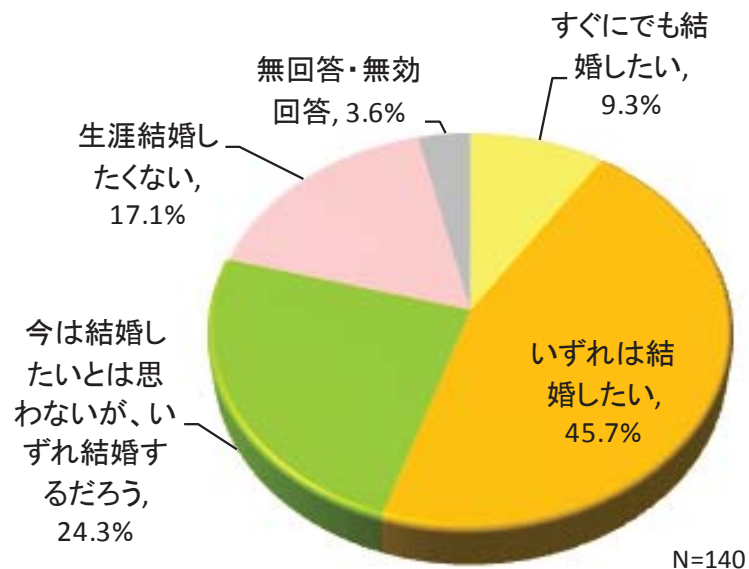
【解決に向けて市が積極的に取り組むべき対策】



(参考①) 市民アンケート調査結果

■ 結婚の希望

- 「結婚していない」回答者のうち、「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」の割合が合計で55.0%となっている。
- このうち、「20代・30代」の「女性」で集計すると、「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」の合計は**65.9%**となる。
- 全国と北海道における、未婚女性(18~34歳)の「生涯の結婚意思あり」の割合と比べると、**全国が89.4%、北海道が84.1%**であり、**夕張市の割合は低い。**



クロス集計
→

【未婚女性（20代～30代）の「すぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」の割合】

夕張市	65.9%
-----	-------

【参考：未婚女性（18～34歳）の「生涯の結婚意思あり」の割合】

	結婚意思あり
北海道	84.1%
全国	89.4%

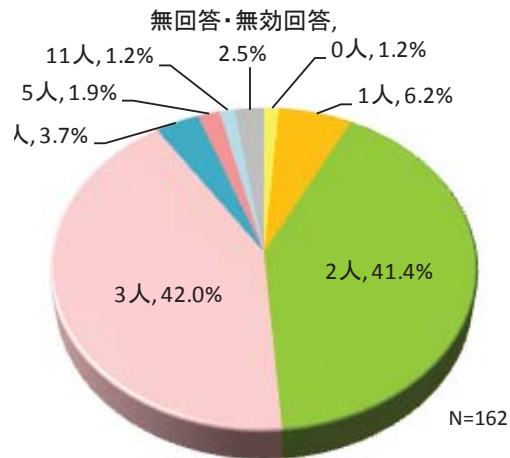
資料：国立社会保障・人口問題研究所のワーキングペーパー（平成22年調査の分析）による。
（国立社会保障・人口問題研究所 Working paper Series(J) No12 出生動向の観点から見た出生動向基本調査の精度評価（石井太、岩澤美帆）より。）

(参考①) 市民アンケート調査結果

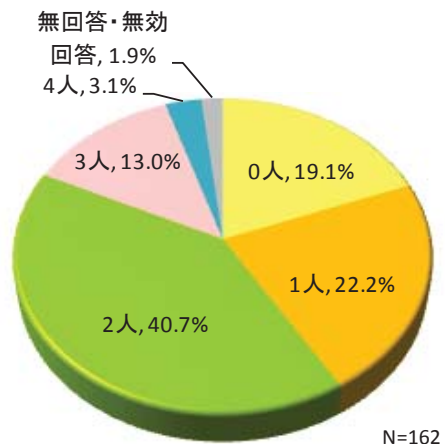
■理想と実際の子どもの人数

- 理想とする子どもの人数は、**平均2.59人**であるのに対し、現在の子どもの人数は**平均1.58人**と、**1.01人**の差が生じている。
- 現在の子どもの人数が理想とする人数より少ない場合の理由として、「**産科小児科など医療環境が不便**」が約41%と最も多く、次いで「子育て・教育費がかかりすぎる」「仕事との両立が困難」が約36%となっている。

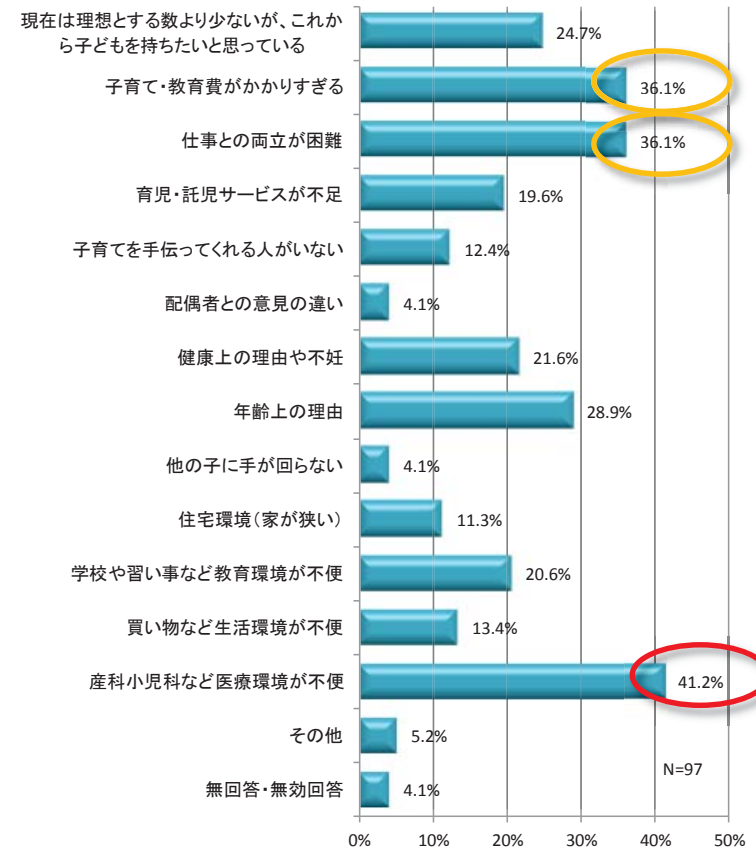
理想の子どもの人数



現在の子どもの人数



【現在の子どもの人数が理想とする人数より少ない場合、その理由】

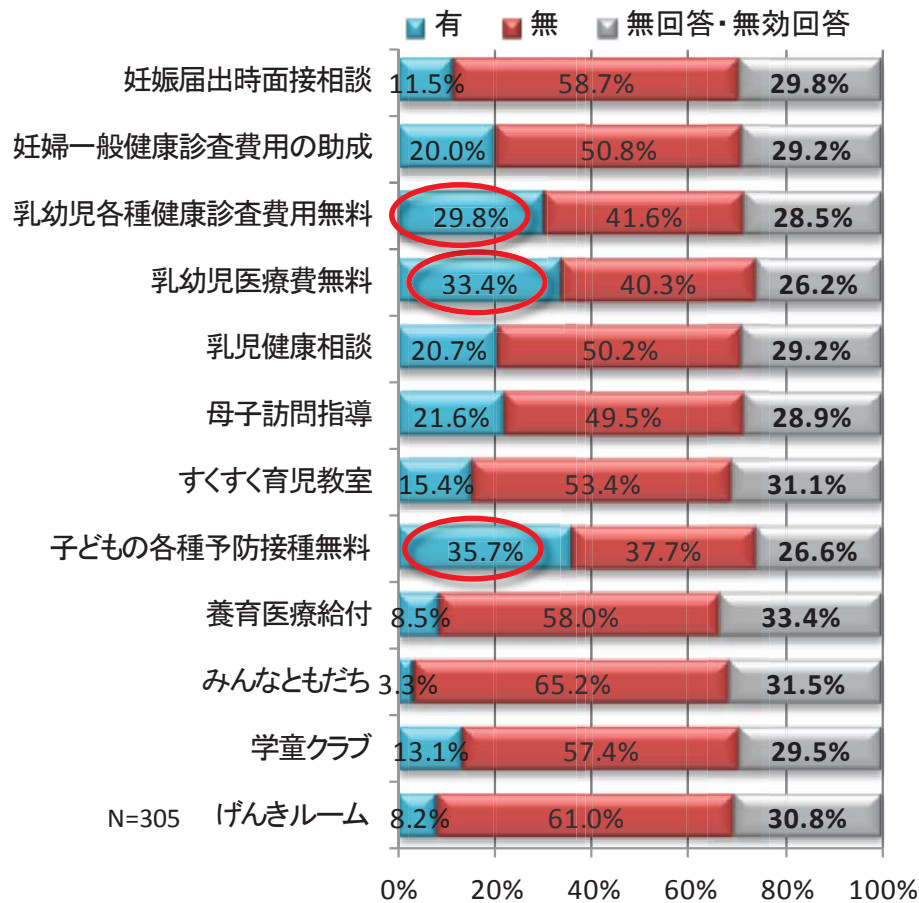


(参考①) 市民アンケート調査結果

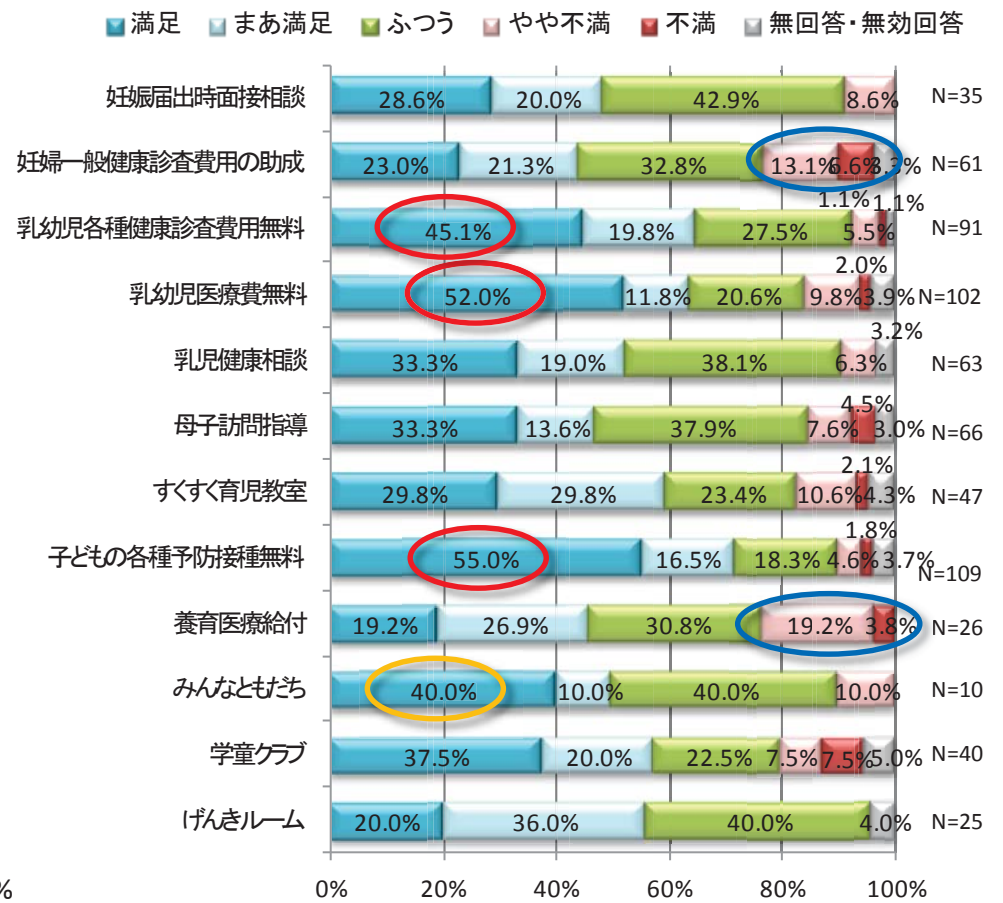
■ 夕張市の結婚・出産・子育てに関する支援策の利用経験と満足度

- ・「子どもの各種予防接種無料」が35.7%と最も多く、次に「乳幼児医療費無料」が33.4%、「乳幼児各種健康診査費用無料」が29.8%と続く。3施策の満足度は、どれも「満足」が45%以上と最も高い。
- ・どの施策も「満足」「まあ満足」の合計で4割以上を占める。一方、「妊婦一般健康診査費用の助成」「養育医療給付」は「不満」「やや不満」が20%以上を占め、不満の割合が最も高い。

【支援策の利用経験】



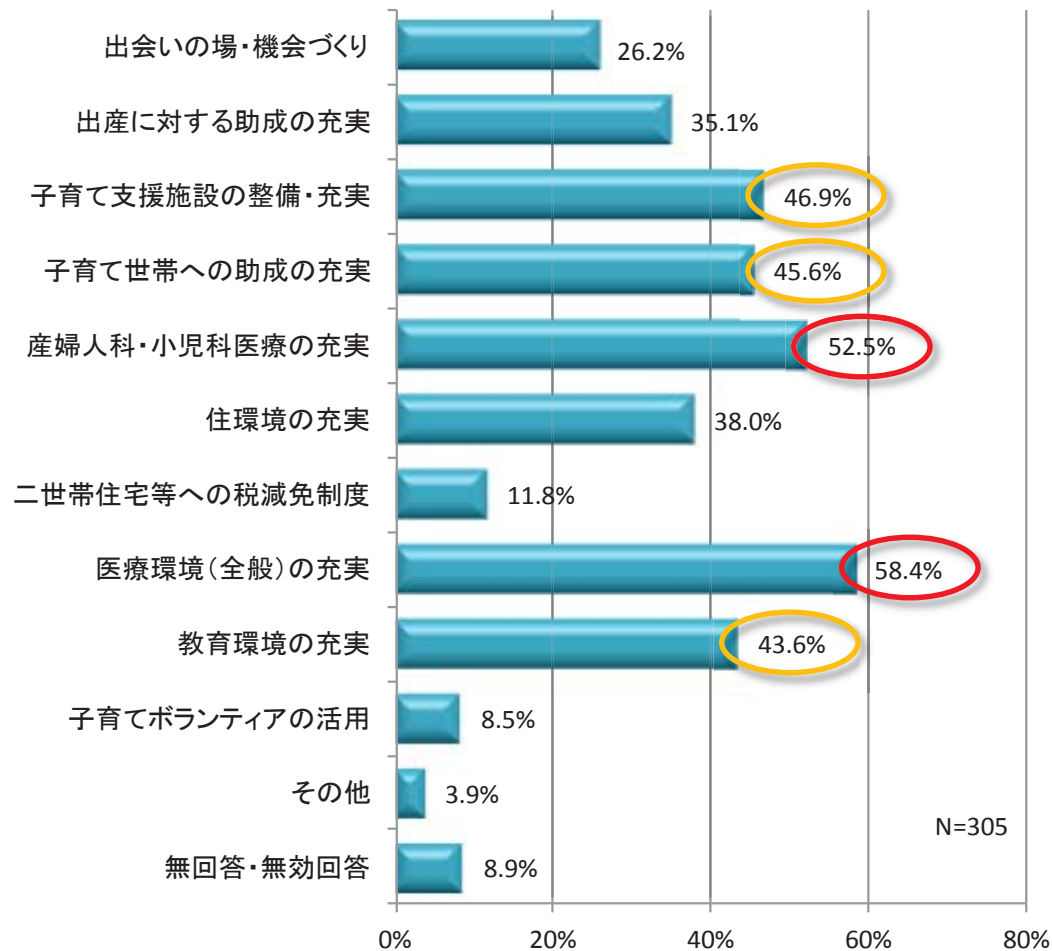
【支援策の満足度】



(参考①) 市民アンケート調査結果

■ 結婚・出産・子育て支援のために、市が積極的に取り組むべき施策

- 「医療環境(全般)の充実」が58.4%と最も高く、「産婦人科・小児科医療の充実」が52.5%と過半数を超えて最も多い。
- 次に、「子育て支援施設の整備・充実」「子育て世帯への助成の充実」「教育環境の充実」が、4割を超えて高くなっている。

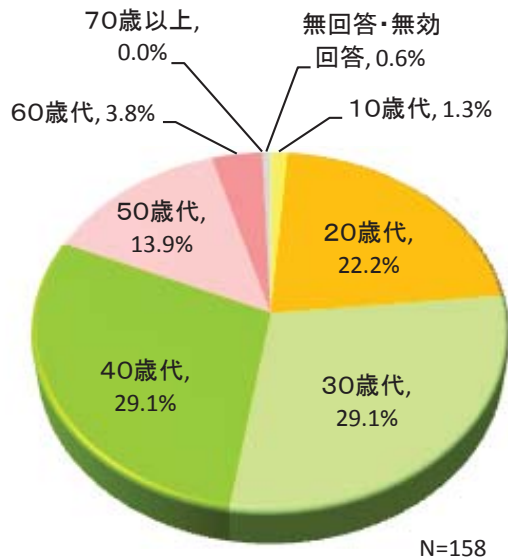


(参考②) 通勤者アンケート調査結果

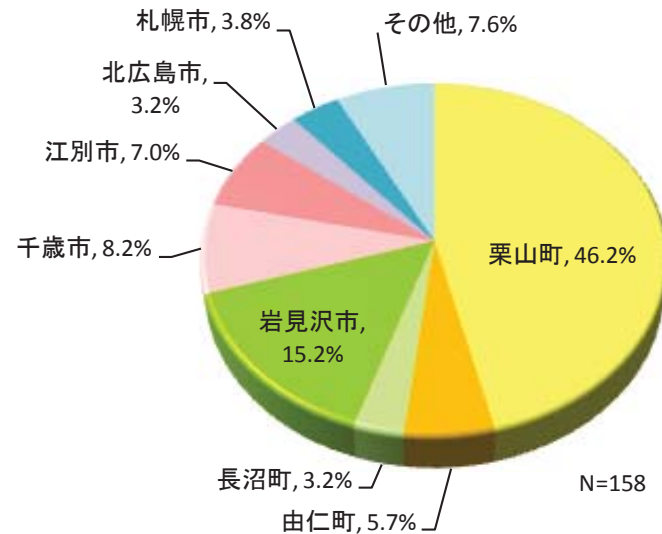
■ 回答者属性

- 年代は、30代、40代が約30%、20代が約22%で全体の約8割を占める。
- 居住地は、栗山町が約46%、岩見沢が約15%。
- 住宅の種類は、持ち家(一戸建)が約48%と半分近くを占め、民間の賃貸マンション・アパートが約39%と続く。

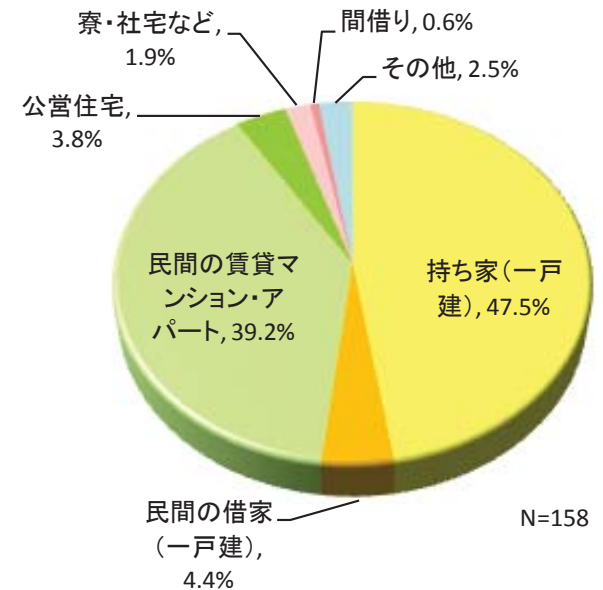
【年 代】



【居住地】



【住宅の種類】

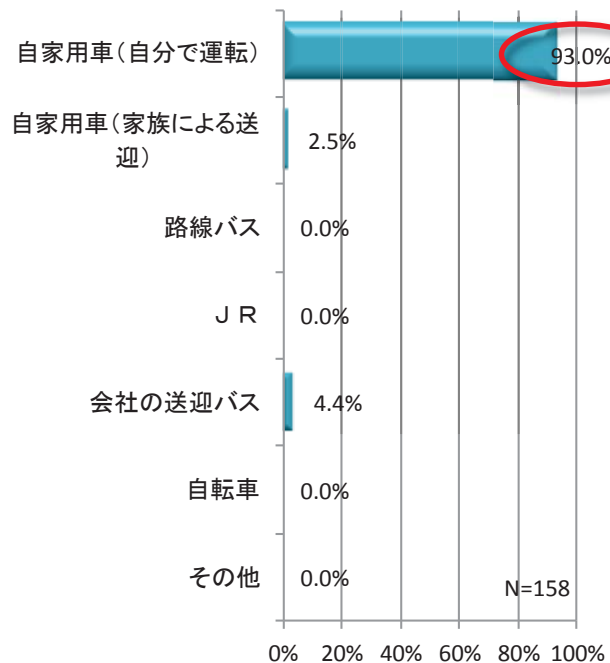


(参考②) 通勤者アンケート調査結果

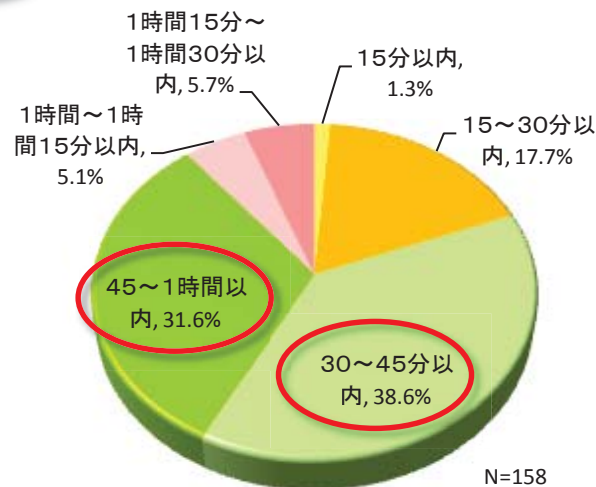
■ 回答者属性

- 通勤手段は、ほとんどが自家用車(自分で運転)で、**30~1時間以上**かけて通勤している方が**全体の7割**を占めている。
- 通勤で困っていることとしては、「**冬場の運転が大変**」が過半数を超えており、突出している。

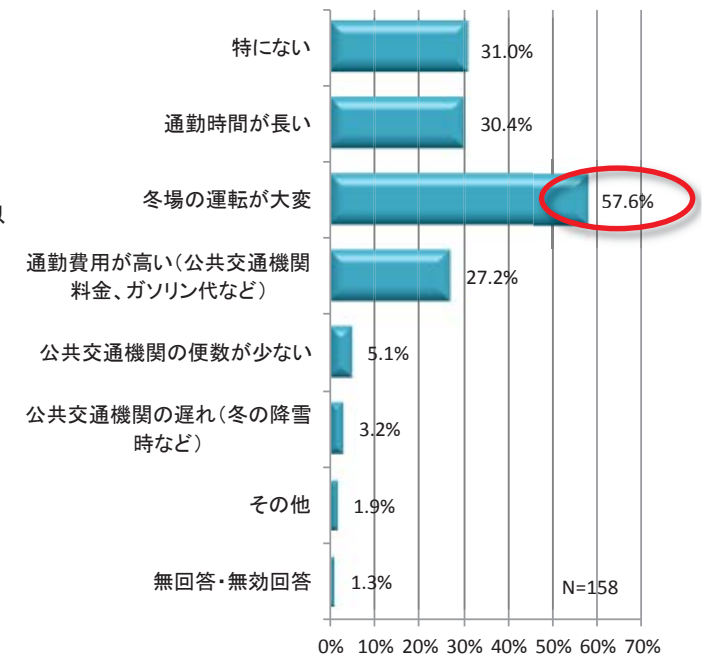
【通勤手段】



【通勤時間】



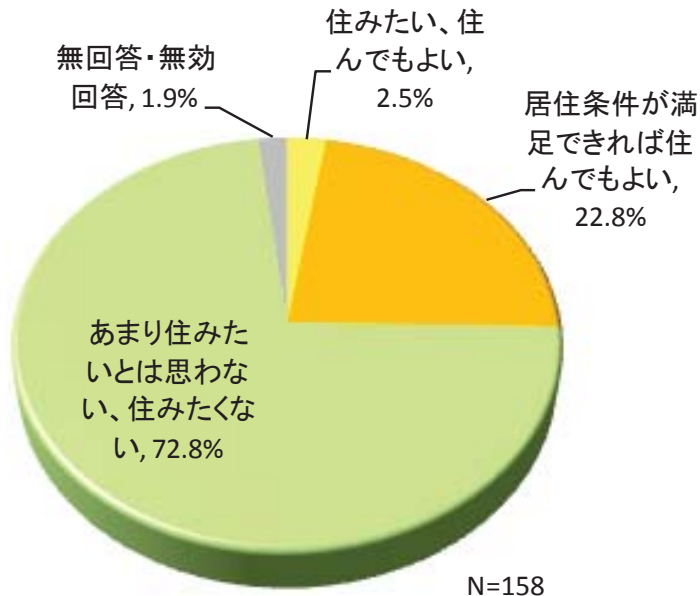
【通勤で困っていること】



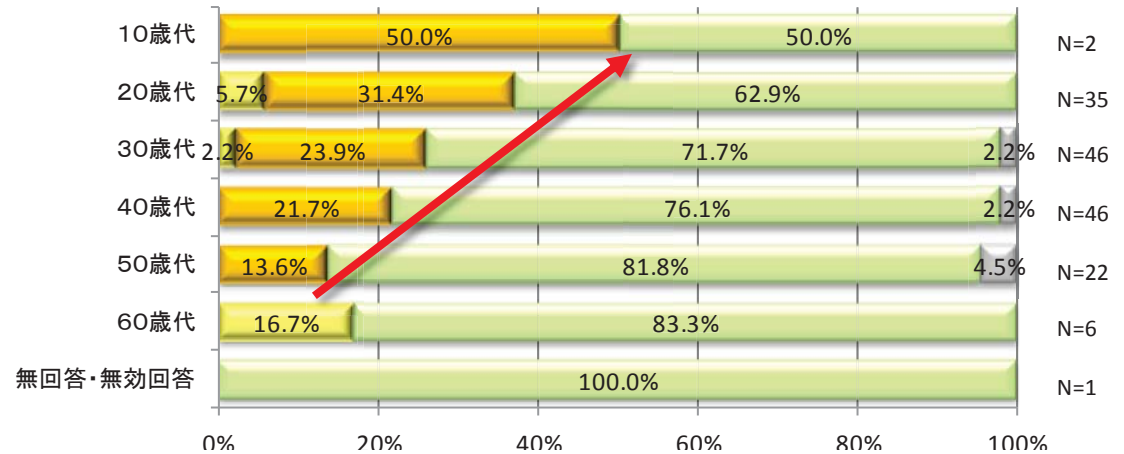
(参考②) 通勤者アンケート調査結果

■ 夕張市への居住意向

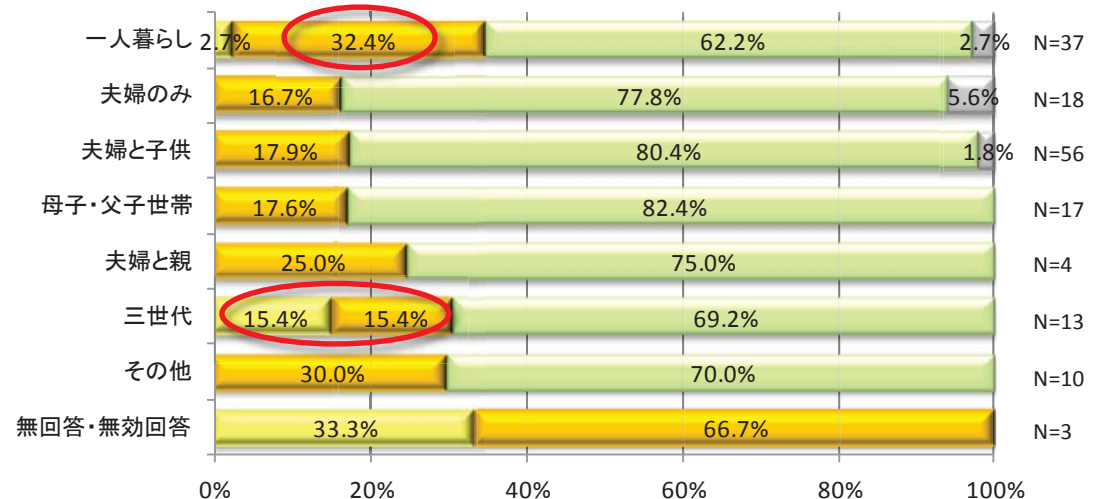
- 「あまり住みたいとは思わない、住みたくない」が約73%と7割以上を占め、「居住条件が満足出来れば住んでもよい」が約23%、「住みたい、住んでもよい」が2.5%に留まっている。
- 若年層ほど、「居住条件が満足できれば住んでもよい」の割合が大きくなる。
- 「一人暮らし」の「居住条件が満足できれば住んでもよい」は32.4%と高く、「三世代」も住んでもよい割合が約31%。



【年代別集計】



【家族構成別集計】

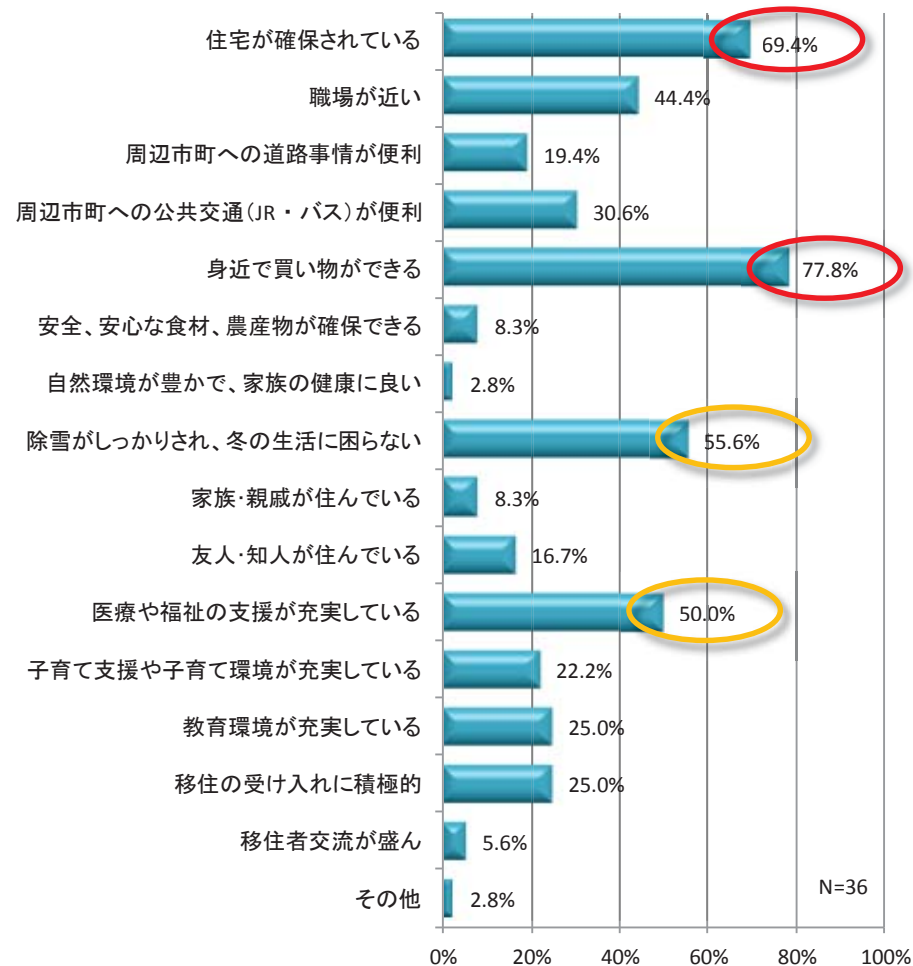


- 住みたい、住んでもよい
- 居住条件が満足できれば住んでもよい
- あまり住みたいとは思わない、住みたくない
- 無回答・無効回答

(参考②) 通勤者アンケート調査結果

■満足できる居住条件・夕張で住む場合希望する住宅

- 満足できる居住条件は、「身近で買い物ができる」が約78%と8割近く、次いで「住宅が確保されている」が約69%と約7割となっている。
- さらに、「除雪がしっかりされ、冬の生活に困らない」が約56%、「医療や福祉の支援が充実している」が50%と半数以上を占めている。

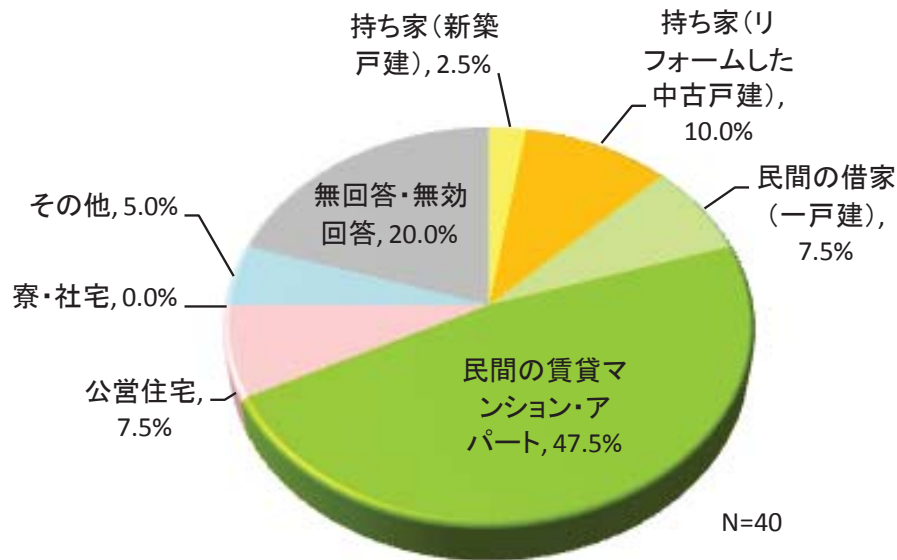


(参考②) 通勤者アンケート調査結果

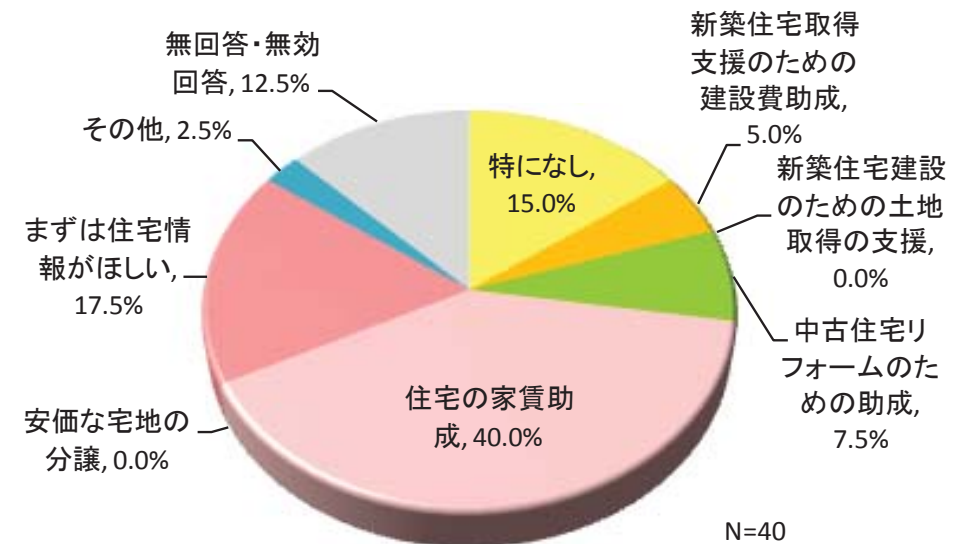
■夕張市で住む場合、希望する住宅・住宅支援策として選ぶもの

- 夕張で住む場合、希望する住宅として「**民間の賃貸マンション・アパート**」が約48%と半数近くを占めている。
- 住宅支援策としては、「**住宅の家賃助成**」が40%、次いで「**まずは住宅情報がほしい**」が約18%だった。

【夕張で住む場合希望する住宅】



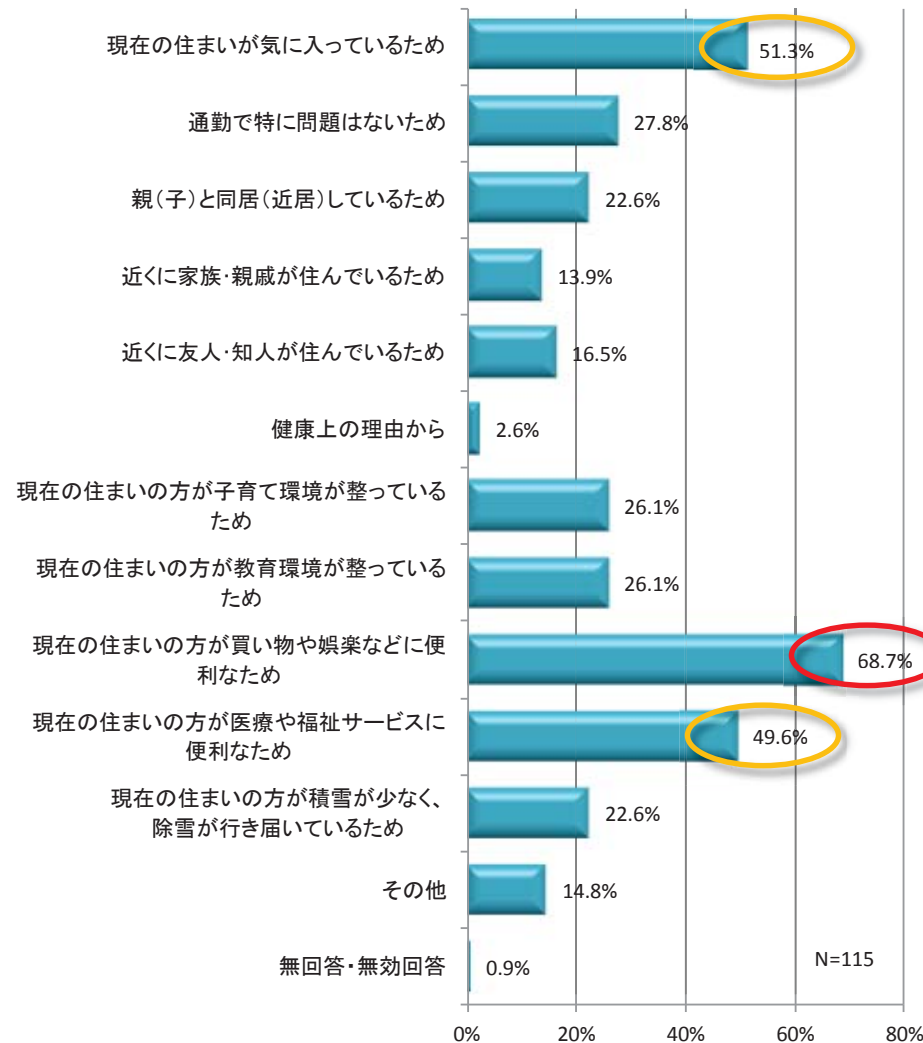
【夕張で住む場合、住宅支援策として選ぶもの】



(参考②) 通勤者アンケート調査結果

■ 「あまり住みたいとは思わない、住みたくない」とした理由

- ・「現在の住まいの方が買い物や娯楽などに便利なため」が約69%と7割近い。
- ・また、「現在の住まいが気に入っているため」「現在の住まいの方が医療や福祉サービスに便利なため」が約半数となっている。

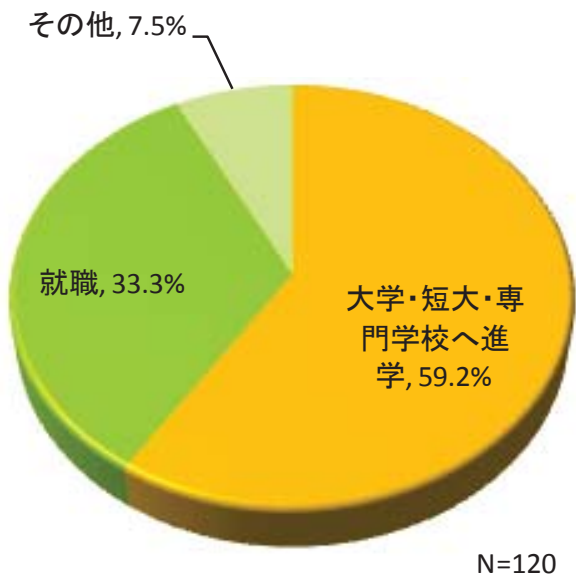


(参考③) 高校生アンケート調査結果

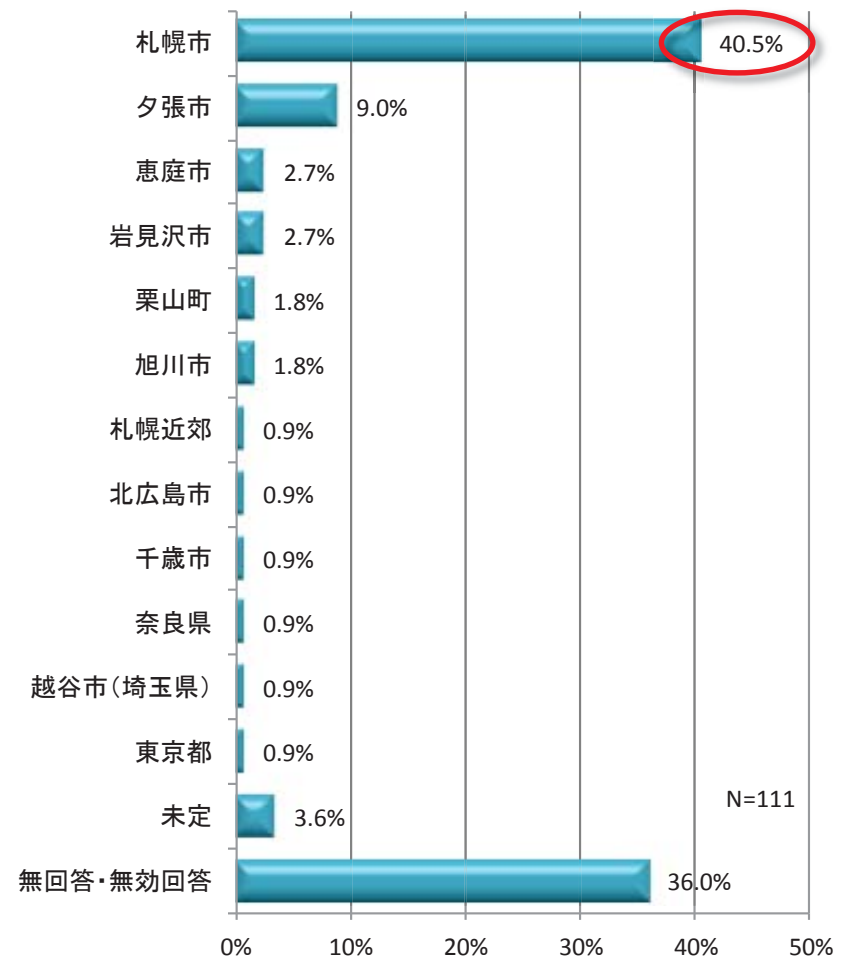
■ 高校卒業後の進路

- 高校卒業後は、「**大学・短大・専門学校へ進学**」が約59%と約6割を占め、「**就職**」が約33%を占める。
- 進学先・就職先としては、「**札幌市**」が4割と最も多く、次いで「**夕張市**」が9.0%と1割近くとなっている。

【高校卒業後の進路】



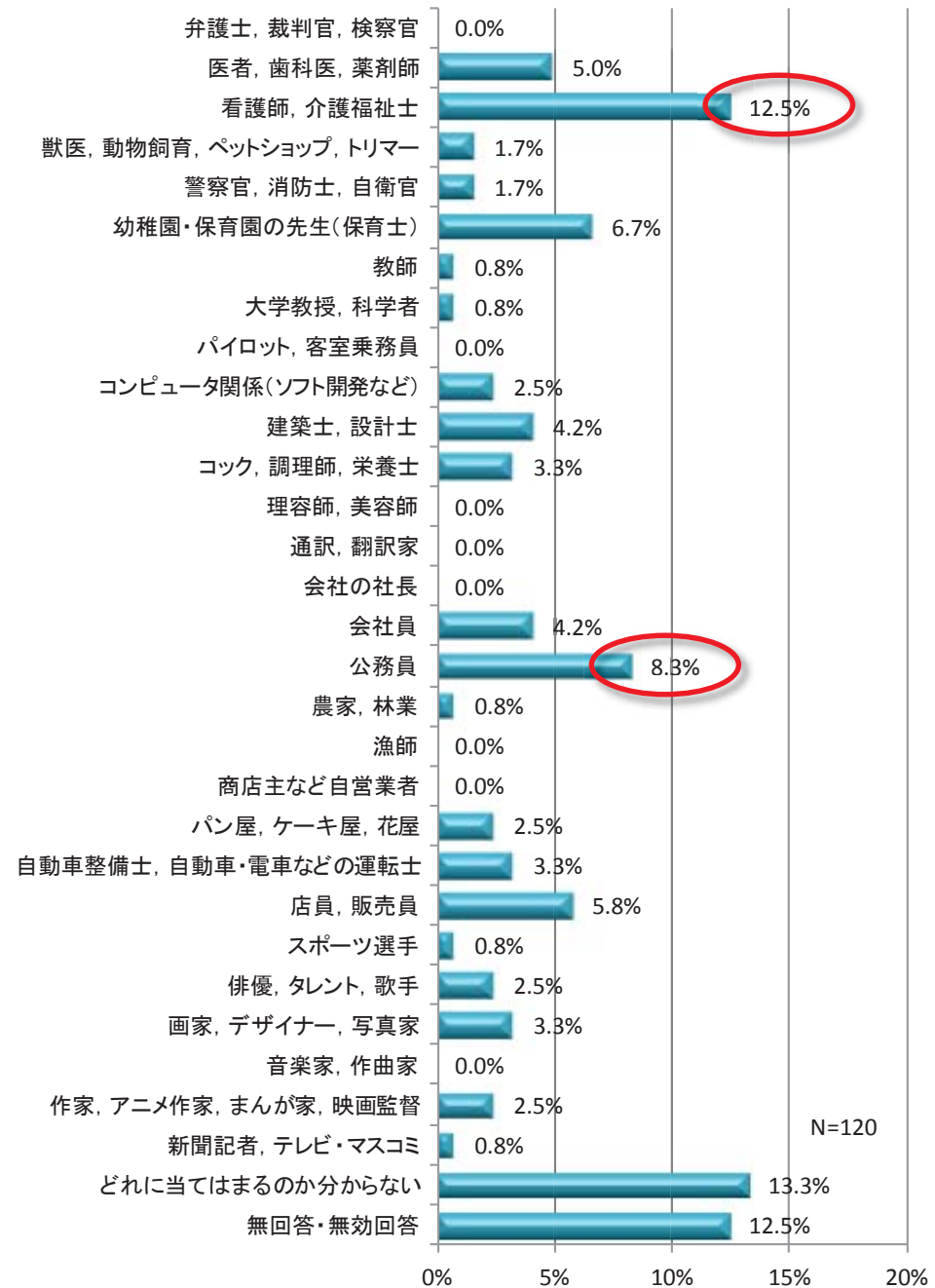
【進学先・就職先の市町村（複数回答）】



(参考③) 高校生アンケート調査結果

■ 最も就きたい職業に近い職種

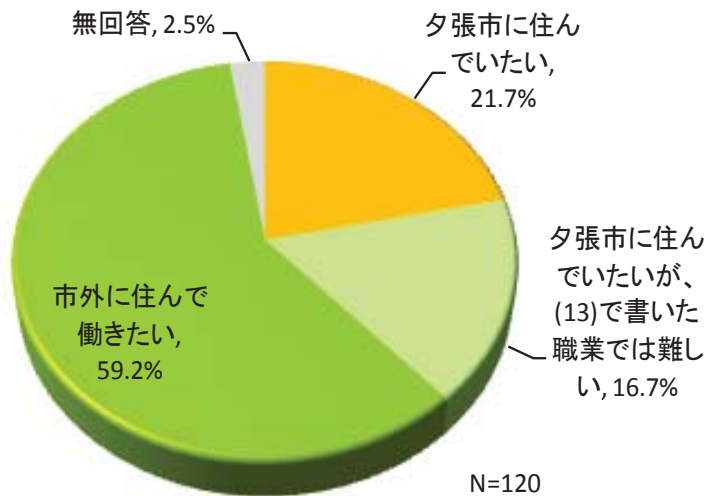
• 最も就きたい職業に近い職種としては、「看護師、介護福祉士」が多く、次いで「公務員」が多くなっている。



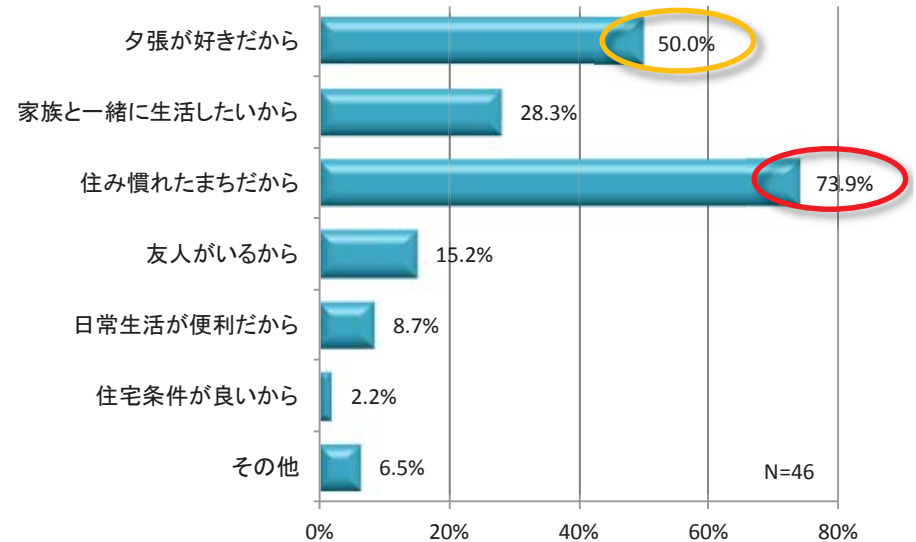
(参考③) 高校生アンケート調査結果

■ 就職後の夕張市への居住意向

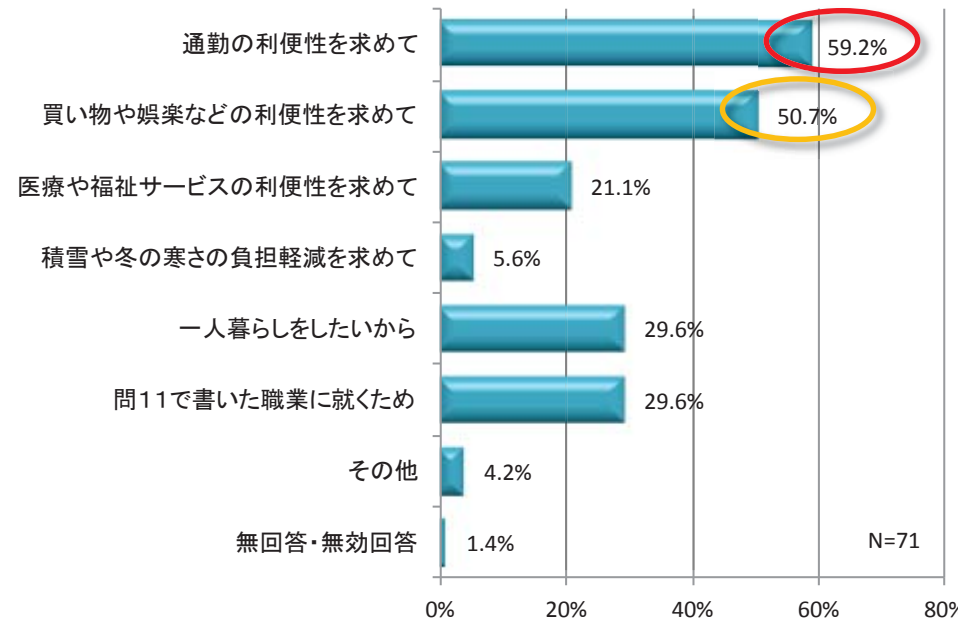
- 「市外に住んで働きたい」が約59%と約6割を占め、「夕張市に住んでいたい」は約22%となっている。
- 就職後に夕張市に住んでいたい理由として「住み慣れたまちだから」が約74%、次いで「夕張が好きだから」が50%と続く。
- 反対に、市外に住みたい理由は、「通勤の利便性を求めて」が約59%、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が約51%となっている。



【就職後に夕張市に住んでいたい理由】



【就職後に市外に住みたい理由】

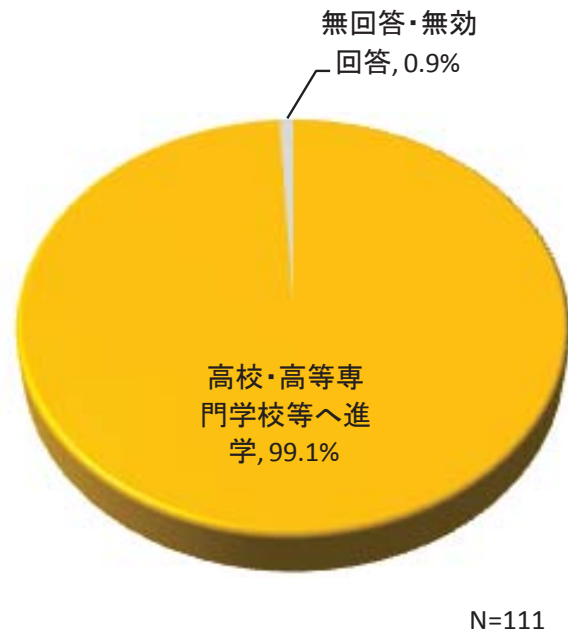


(参考④) 中学生アンケート調査結果

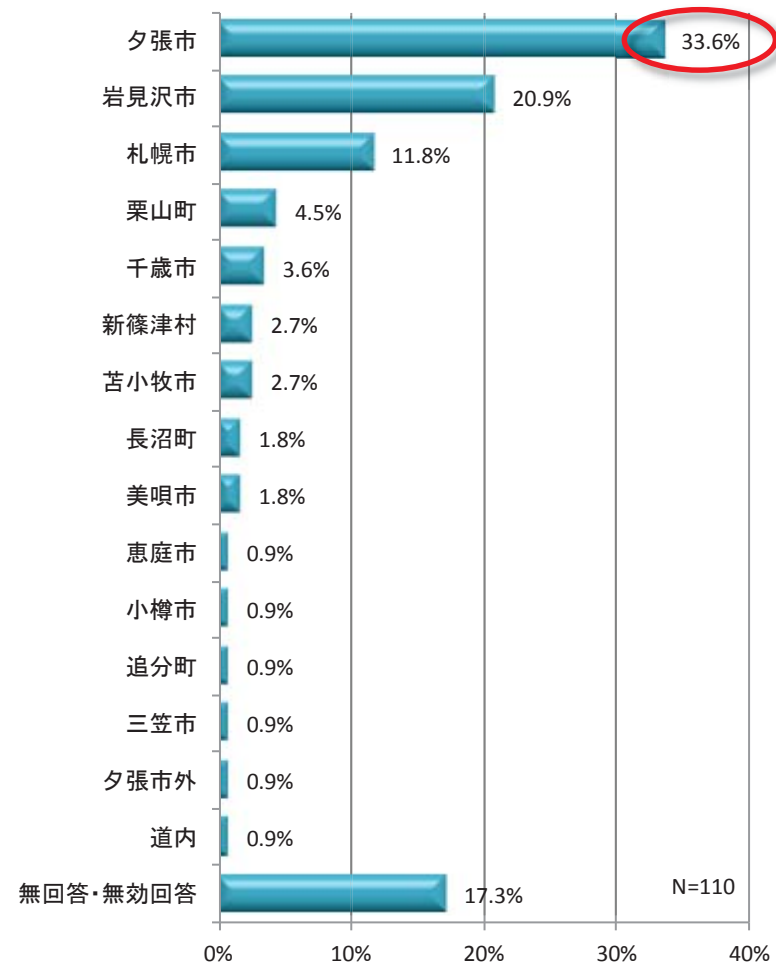
■ 中学卒業後の進路

- 中学卒業後は、ほぼ全員が「**高校・高等専門学校等へ進学**」。
- 進学先・就職先としては、「**夕張市**」が**33.6%**と最も多く、次いで「**岩見沢市**」が**約21%**となっている。

【中学卒業後の進路】



【進学先・就職先の市町村（複数回答）】

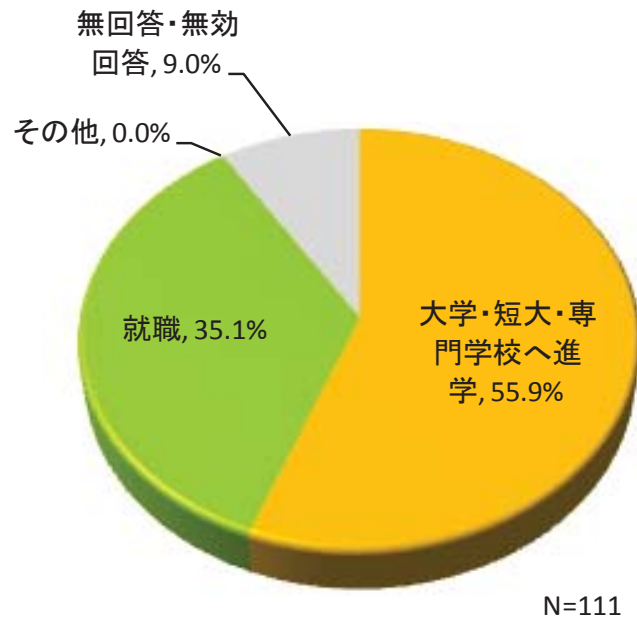


(参考④) 中学生アンケート調査結果

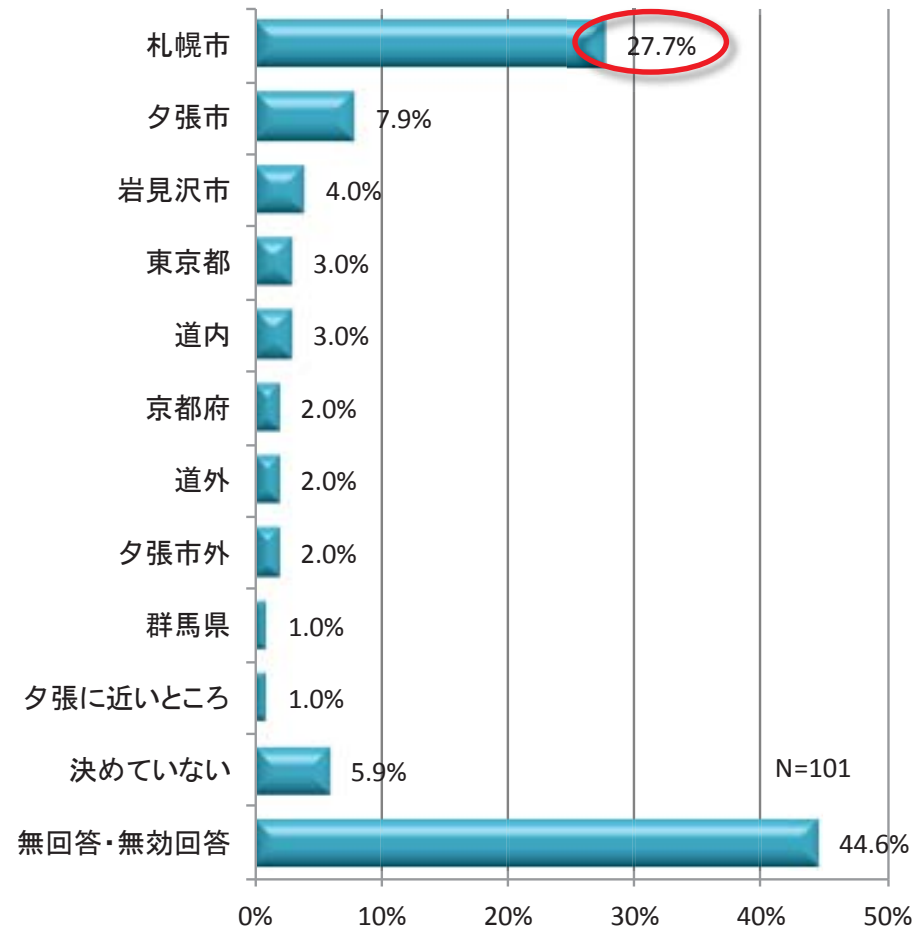
■ 高校卒業後の進路

- 高校卒業後は、「**大学・短大・専門学校へ進学**」が約56%を占め、「**就職**」が約35%を占める。
- 進学先・就職先としては、「**札幌市**」が約28%と最も多く、次いで「**夕張市**」が7.9%となっている。
- 「高校生アンケート」の結果とほぼ同様の結果となった。

【高校卒業後の進路】



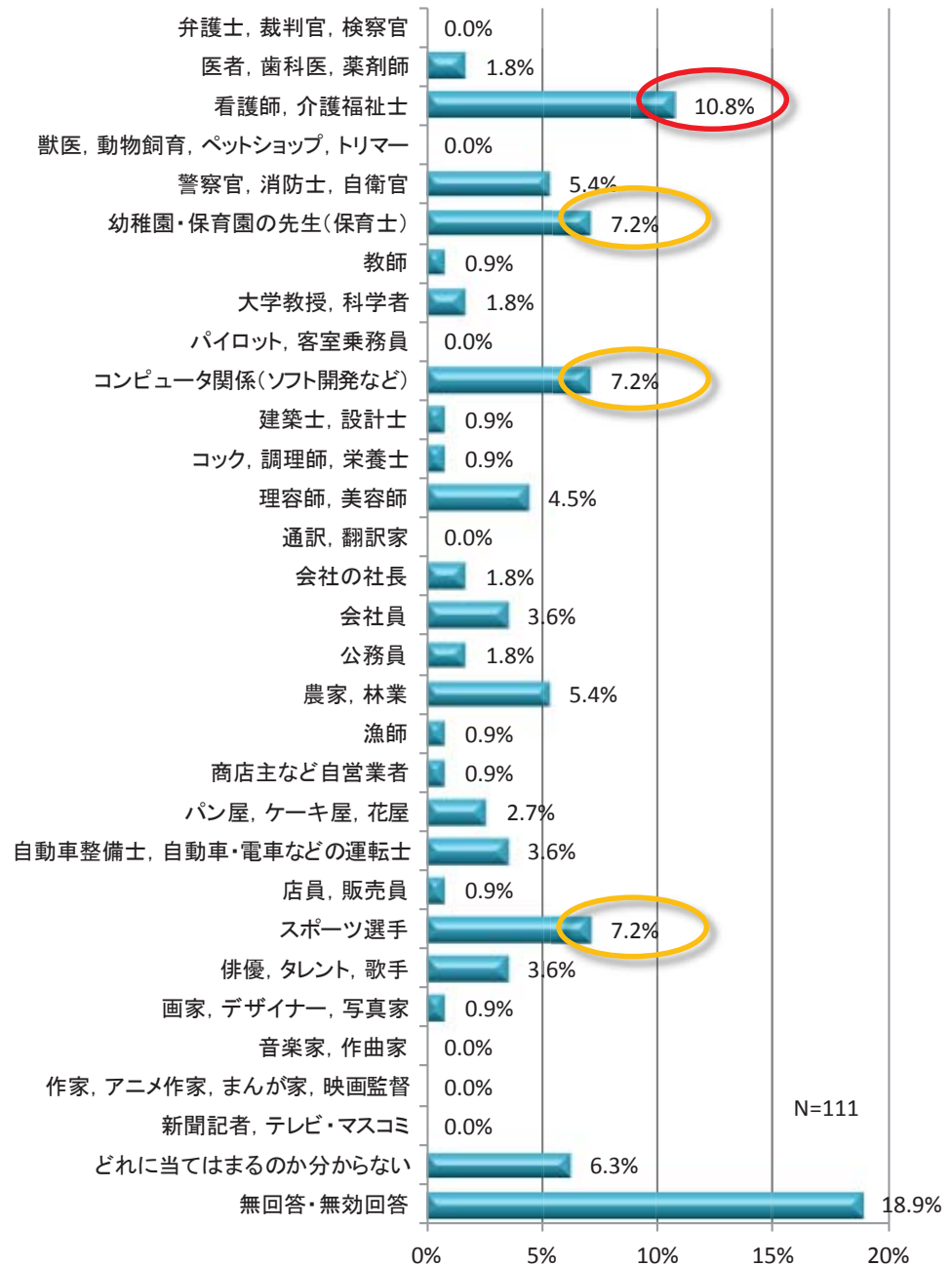
【進学先・就職先の市町村（複数回答）】



(参考④) 中学生アンケート調査結果

■ 最も就きたい職業に近い職種

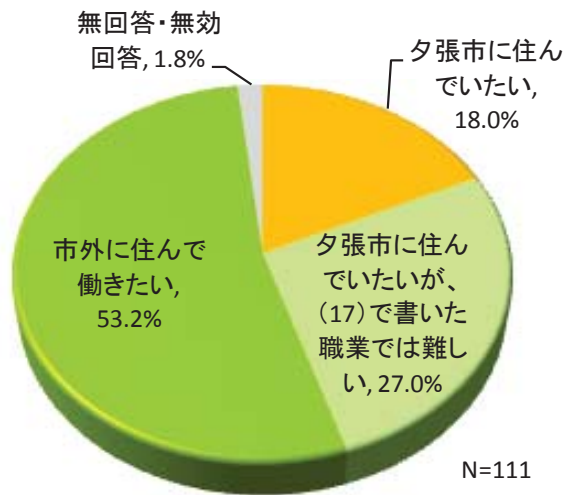
• 最も就きたい職業に近い職種としては、「看護師、介護福祉士」が最も多く、次いで「幼稚園・保育園の先生(保育士)」、「コンピューター関係(ソフト開発など)」、「スポーツ選手」が多い。



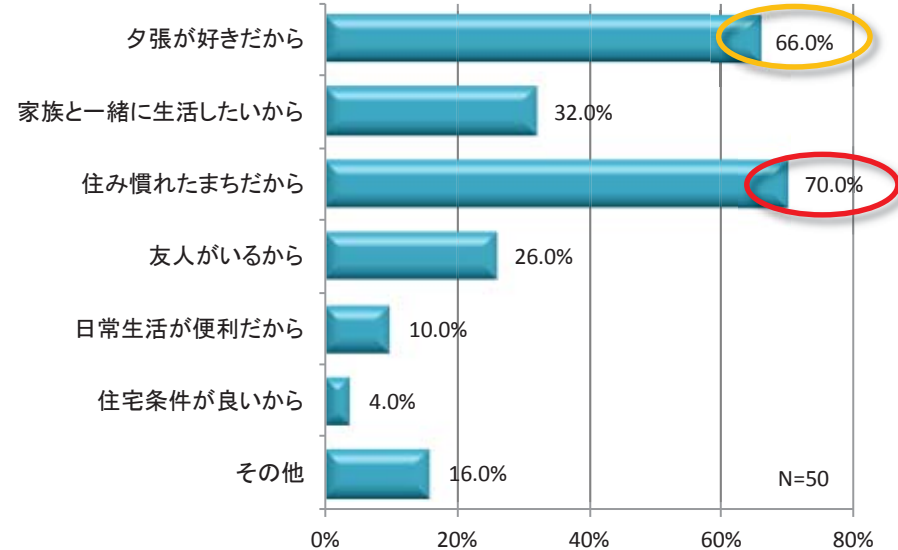
(参考④) 中学生アンケート調査結果

■ 就職後の夕張市への居住意向

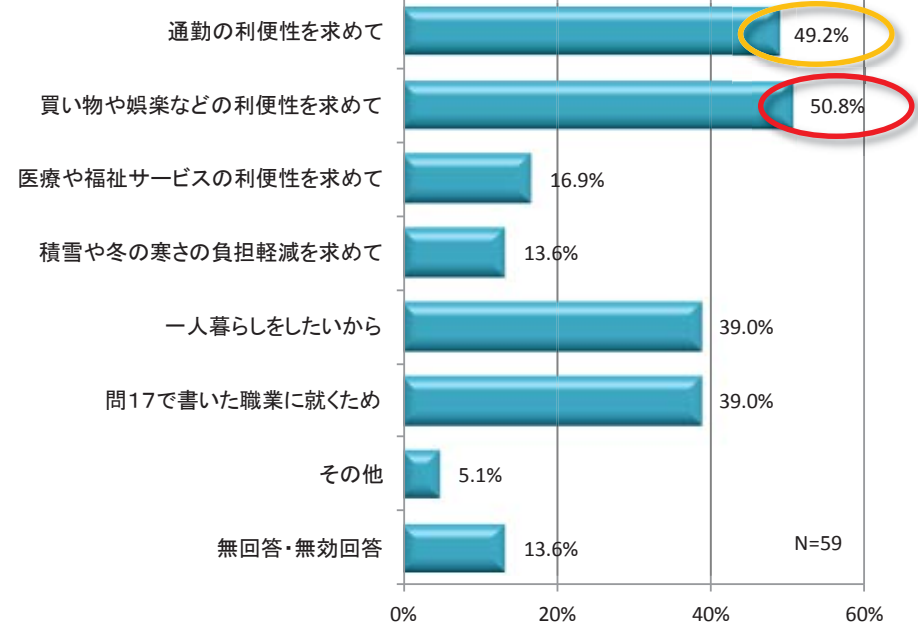
- 「市外に住んで働きたい」が最も多いが、「夕張市に住んでいたい」「夕張市に住んでいたい、希望する職業では難しい」と合計すると45%と半数近い。
- 就職後に夕張市に住んでいたい理由として「住み慣れたまちだから」が70%、次いで「夕張が好きだから」が66%と続く。
- 反対に、市外に住みたい理由は、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が約51%、「通勤の利便性を求めて」が約49%と半数近くとなっている。
- 「高校生アンケート」とほぼ同様の結果となった。



【就職後に夕張市に住んでいたい理由】



【就職後に市外に住みたい理由】



3. 北大生によるヒアリング調査結果

北海道大学工学部都市地域デザイン学研究室

※本調査結果に係る著作権は、北海道大学工学部都市地域デザイン学研究室に帰属します。

①人口減少都市における集約型コンパクトシティ形成に向けた拠点像

【住民が夕張市の都市拠点に求める重要機能】

優先順位1 居住の場所

- ・移住や定住者のための住宅があること

優先順位2 人との交流によって安心を支える場所

- ・互いに普段から見守り会えるための場や体制があること
- ・安心して遊べる公園や児童館、放課後の居場所があること
- ・証明書の発行などの行政サービスを受けられる場所があること
- ・色々な世代の住民が気軽に集まったり、話したりできる場所があること

優先順位3 市内全体の活動の中心となる場所

- ・保育園や幼稚園があること
- ・バスターミナルなど市内・市外とつながる交通結節点があること
- ・雪処理の負担が改善される住宅があること
- ・企業を誘致し働く場所や選択肢があること
- ・働くための周辺環境が整っていること(保育園など)
- ・介護の不安を抱えたときに入れる施設や受けられるサービスがあること
- ・日常の買い物ができる場所があること(現状のcoopや商店街とも絡めて)

②地方小都市における人口減少を抑制するためのまちづくり

【人口減少を抑制するための方策】

夕張市に、総合的に整備すべき決定要因【教育】【住環境】【医療・福祉】【経済】【利便性】

教育 [拠点] 部活動の充実や専門学科の整備等の夕張高校の充実/塾や習い事等の教育関連施設

[市内] 保育料の値下げ等の経済支援の充実 [市外]市外高校へのスクールバス等の公共交通

住環境 [拠点] 家賃の安い民間賃貸住宅等の中間所得者向け住宅

医療・福祉 [拠点] 小児科等の医療 [市内]出産の経済支援 [市外]市外と連携した緊急・専門医療

経済 [拠点] 主婦の職場等の雇用環境 [市内]税金や公共料金等の経済負担の軽減

利便性 [拠点] 夜間営業のスーパー等の最低限の整備 [市外]その他の品目は市外の店舗と連携

4. まとめ

1～3の結果から・・・

～第1回策定委員会意見～

- ◆ 若者が住み、働く場所の確保
- ◆ 子育て支援の情報提供の充実
- ◆ 子育てするための医療機関の充実
- ◆ 子どもたちの放課後の居場所づくり
- ◆ 地区ごとに子どもが集まる場所づくり

～アンケート結果～

- ◆ 医療・子育て・生活環境の充実
- ◆ 住宅の確保に対する要望
- ◆ 若い世代ほど、「居住条件次第で市内に住んでもよい」割合が高い

～ヒアリング結果～

- ◆ 中間所得者向けの低家賃賃貸住宅の整備
- ◆ 安心して遊べる児童館や公園など、放課後の居場所づくり
- ◆ 色々な世代の住民が気軽に集まり、話せる場所づくり
- ◆ 働きながら子育てができる環境整備

【戦略1】
若者の定住と子育て支援

- ・定住促進
- ・出生率の向上(自然減抑制)

1～3の結果から…

～第1回策定委員会意見～

- ◆ 起業者へ紹介できる物件の整備
- ◆ 夕張での可能性を発信
- ◆ スポーツ施設の活用を促進
- ◆ 夕張が持つ魅力を広く発信する

～ヒアリング結果～

- ◆ 主婦の職場環境等の整備
- ◆ スポーツ施設を活かした誘致
- ◆ 二地域居住についての環境整備
- ◆ 情報発信体制の整備

【戦略2】
新たな人の流れ・
交流人口の創出

- ・交流人口の創出
- ・Uターン、移住の促進

1～3の結果から・・・

～第1回策定委員会意見～

- ◆ 高齢者の雇用の場を確保
- ◆ メロン農家の人手不足解消
- ◆ 森林資源の活用
- ◆ 民間の活力を生かした事業推進

～アンケート結果～

- ◆ 市内の中学校・高校を卒業した生徒が、居住地として選択できるような環境づくり

～ヒアリング結果～

- ◆ 働く場所・選択肢があること
- ◆ 主婦が働く職場環境の整備

【戦略3】
地域資源を活用した
働く場づくり

- ・定住促進
- ・出生率向上
- ・二地域居住
- ・雇用拡大

1～3の結果から・・・

～第1回策定委員会意見～

- ◆ 夕張が持つ魅力・可能性について市民の意識を共有する
- ◆ 生徒数の減少に対応
- ◆ 雇用のミスマッチ解消

～アンケート結果～

- ◆ 夕張中学校を卒業した生徒が、ぜひ夕張高校に進学したいと思うような、魅力的な高校づくり
- ◆ 中学生・高校生とも、看護師・介護福祉士を希望する生徒が多い

～ヒアリング結果～

- ◆ 部活動の充実や専門学科の整備などの夕張高校魅力化
- ◆ 塾や習い事の充実

【戦略4】 夕張の未来を語る 人材の育成

- ・交流人口の創出
- ・Uターン・移住の促進

1～3の結果から・・・

～第1回策定委員会意見～

- ◆ 生徒のバス待機場所を確保
- ◆ 子どもたちの放課後の居場所づくり

～アンケート結果～

- ◆ 結婚・出産を考えるうえでも、また定住を考えるうえでも、医療体制の充実に対する要望が多い。

～ヒアリング結果～

- ◆ 働きながら子育てできる環境の整備
- ◆ 市内に最低限必要な医療の充実と市外機関との連携
- ◆ バスターミナルなど、市内及び市外とつながる交通結節点の整備

【戦略5】
持続可能なまちづくり
(コンパクト化・拠点形成)

- ・交流人口の創出
- ・Uターン・移住の促進

5. 夕張市地方版総合戦略アウトフレーム(たたき台)

夕張市地方版総合戦略アウトフレーム（たたき台）

重点項目	アクションプラン	効果対象
【戦略1】若者の定住と子育て支援	若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備 子育て世帯向け住宅取得・リノベーション支援事業 子育て支援センターの整備による子育て支援体制の強化 廃校を活用した地域コミュニティ機能の拡充（集落拠点） 空き市営住宅等活用した障がい者自立支援住宅の整備 遊休市有地を活用したサービス付き高齢者住宅の誘致 空家バンク制度を活用した不動産の流動化促進 認定こども園の整備 こども達が集う公園整備	定住・出生率 〃 〃 〃 定住 〃 〃 〃
【戦略2】新たな人の流れ・交流人口の創出	若い力で作る「石炭博物館再生プロジェクト」 総合スポーツクラブ設置によるスポーツ交流ビジネス創出 学官連携によるまちのイメージ再生プロジェクト（地域資源×大学生×地元高校生→新商品） 廃校や空き店舗を活用した起業家支援（情報×事業計画診断×地域サポート隊×助成金） 女性が安心して働き、輝ける場の創出（空き店舗×農産物×地域おこし協力隊活用） 廃校や遊休施設を活用した合宿誘致の推進・市民の健康増進事業 外部人材を活用した観光業人材の育成 21世紀の幸福を感じる「幸福の黄色いハンカチひろば」再生プロジェクト 民間コンテンツを活用した地域地情報サイトの充実	交流人口 交流人口・Uターン 交流・Uターン 交流・定住 〃 〃 交流人口 〃 〃
【戦略3】地域資源を活用した働く場づくり	高齢者×子育てママが活躍する仕事づくり 農業次世代リーダー育成事業 市有林を活用した薬木産地化プロジェクト ズリ山(石炭)を活用した稼ぐ防災事業の推進 炭層メタンガス（CBM）の開発支援やCBMを活用した地場農作物の生産効率化研究	定住・出生率 〃 雇用拡大 〃 〃
【戦略4】夕張の未来を語る人材の育成	小中高連携による郷土愛教育の推進 都市拠点施設等を活用した学習機会の充実（学力向上） 課題から希望を創る高校魅力化プロジェクト 挑戦する中高生への技能・資格取得支援 石炭産業の歴史と文化映像化・語りべ育成事業	社会減抑制 〃 〃 〃 〃
【戦略5】持続可能なまちづくり（コンパクト化・拠点形成）	都市拠点機能の整備によるコンパクトシティの推進 安心の地域医療体制の構築 補てん型から利用型の公共交通体系の構築（交通結節点整備・デマンド交通） 公共施設の更なるスリム化と活用ストックの機能充実	社会減抑制 〃 定住・出生率 〃